

金城学院は2009年度、学院創立120周年、大学設立60周年を迎えます。この節目の時期、2008年3月24日に、戸田安士前理事長にかわり、野村秋博新理事長が金城学院第8代理事長に就任されました。就任間もない野村理事長にお話を伺いました。

激動の時代を乗り越えて、120年の歴史と伝統。  
その一人に加わることができ、  
心底光栄に思っています。



のむら あきひろ  
学校法人金城学院 **野村秋博** 理事長

■プロフィール

1954年愛知県立安城高等学校卒業。1958年同志社大学法学部法律学科卒業、同年中部電力株式会社入社。1987年東海旅客鉄道株式会社役員就任。1988年中部電力株式会社支配人就任。1994年株式会社トーエネック役員就任、同年学校法人金城学院監事就任。2000年財団法人日本YMCA同盟理事・委員長就任。2001年学校法人愛知江南学園監事就任。2005年財団法人名古屋YMCA理事長就任。2008年学校法人金城学院理事、理事長就任。

## 学生時代に受洗

私は高校まで安城市で過ごしました。この辺りは非常に仏教が盛んな地域で、中学生の頃から皆お経の練習をする程でした。そんな環境で育った私が、同志社大学へと進み、「学生YMCA」に参加、大学2年のときに洗礼を受けました。熱心な信徒であった父からは当然猛反対を受けたのですが、若さゆえの情熱といえいいのでしょうか、何とか説得することができました。それからは、「学生YMCA」活動に参加したり、日曜日には教会へ礼拝に出かけたりという日々を送っていました。

## 企業人として多くを学ぶ

私は法律学科で学んだのですが、大学での専門ゼミは労働法を選びました。法を通しての人の生き様に興味があり、就職の際も人が多く働いている現場を希望しました。そして当時、国づくりの一環としてインフラ整備に尽力していた中部電力と巡り合うことができたのです。

入社と同時に人事課に配属されたのですが、先輩に言われた言葉が今でも強く心に残っています。「人事の仕事は、一人ひとりに言い訳をして回ることはできない。発令した以上は決して取り返しのつかないものだ」。それを伺った私は、常に対象となる人の顔を思い浮かべ、どのような影響が生じるかを考えて仕事に当たるようになりました。ひとつひとつの仕事に対して誠実でなければならないことを教えられた素晴らしい職場でした。

## 故渡邊亘親 元理事長・学院長との出会い

高校まで安城にいましたので、もちろん金城学院の存在は知っていましたが、大学時代から「学生YMCA」を通しての交流や、金城の

先生をしておられた名古屋御器所教会の土岐林三牧師にご指導を受けていたこともあり、身近に感じていました。

そして、1980年代のことになりますが、名古屋の経済界に著しい功績を果たしてこられた故渡邊亘親元理事長・学院長と、「名古屋YMCA」の理事としてご一緒させていただくこととなり、一方ならぬご指導を賜りました。1994年に金城学院の監事にお話があり、固辞させていただいたのですが、「勉強のために」と仰られお受けすることとなりました。

それから14年、この度理事長という大任に就くこととなったのですが、渡邊先生に教えられたことを守りつつ、建学の精神を発展させていきたいと考えております。来年、本学院は120年、大学は60年という節目を迎えます。これを契機にして、先生方、学生、生徒、園児、OGの皆様方と一緒に、今一度“これが金城です”というものを構築できればと思っています。

激動の時代を乗り越えての120年は、並大抵のことではありません。これからの120年に向けて、一人ひとりが何をすればいいのかを考え、支える一人であってくださることを願います。その一人として、私も全力を傾けて臨んでいく決意です。

## 全員参加型の 周年記念事業に向けて

また、この記念すべき年を祝うとともに、学院のさらなる発展の契機とするため、学院を挙げて、全員参加型の周年記念事業を進めていきます。

現在、その歴史を振り返り紹介する記念DVD(現在の様子を映したり、過去の写真をナレーションで説



明したり、卒業生の方々の思い出話を聞いたりという内容で、映像と音声を使って金城学院の現在と過去を伝えようというもの)の製作、記念演奏会などの各種事業を計画しております。また、学内関係者にも呼びかけ、記念事業のアイデアを募集しました。この周年記念事業が「キリスト教に基づき、生涯を神と人々に奉仕する」という創立者の理念、金城学院のアイデンティティや実力を内外に示す機会となれば幸いです。

これからも、今までの伝統を背景に、未来に向けた人間教育を実践し、世界平和に貢献できる女性を育成してまいります。

## 記念ロゴマーク



金城学院は創立120周年、大学設立60周年を記念して、この度、ロゴマークを策定いたしました。金城学院の校章の一部にもなっている百合の花をモチーフに、キリストの復活の象徴、純潔の徳を表すとともに、金城学院の長い伝統を表現しています。